

3 指導業務

県内外の木材加工業、住宅関連企業、設計事務所等を対象に、各研究部が行った技術相談・指導及び依頼試験の実績は以下のとおりである。

3-1 技術相談及び指導件数

(1) 件数 (累計)

年 度	13	14	15	16	17	計
材料開発部	31	83	126	74	38	352
木材加工部	62	218	224	189	183	876
構法開発部	134	229	355	378	353	1,449
企画管理課	—	—	40	27	33	100
計	227	530	745	668	607	2,777

(2) 依頼者内訳数 (累計)

年 度	13	14	15	16	17	計
企業・団体	173	402	548	481	415	2,019
行政機関	43	111	178	160	185	677
その他個人等	11	17	19	27	7	81
計	227	530	745	668	607	2,777

(注) 森林組合は企業・団体に、大学等教育機関は行政機関に含む。

(3) 主な試験及び相談・指導内容 (平成17年度)

		内 容
平成 17 年 度	材料開発部	・スギ材の耐蟻性・スギ精油成分の効力、取扱法・スギ材の耐薬品性 ・スギ材の乾燥スケジュール・スギ柱材の内部割れ軽減法・木材魚礁 等
	木材加工部	・スギめり込みクリープ試験・スギ圧密フローリングの反り防止 ・スギラミナの引張試験とデータ分析方法・スギ樹皮断熱材 等
	構法開発部	・韓国木造の今後・韓国向けプレカットの仕様・双子柱の縦圧縮強度 ・中国の木造基準・木造畜舎のシステム整備法・スキ2'×4'住宅の可能性 ・堀川木橋の実験・県産スキ低強度材の用途・木の花トーム耐火設計法 ・天福球場の維持管理法・スギスパン表 等

3-2 依頼試験内訳

(1) 依頼試験実績

年 度	13	14	15	16	17	計
依頼試験	125	141	171	81	50	568
金 額	1,572,860	1,392,610	1,833,485	736,450	632,755	6,168,160

(2) 試験内訳件数

試験内容／年度	13	14	15	16	17	計
短柱圧縮試験	2		1	4	10	17
床せん断試験	14	7				21
壁せん断試験	14	6	26	1	8	55
実大振動試験		1		4		5
曲げ試験	39	20	23	14	9	105
引張試験	9		5	3	2	19
長柱圧縮試験		2	4			6
熱伝導率測定試験			1	7		8
小試験体強度試験		56	42	14	8	120
耐候性試験	22	5	7			34
接着試験	12	11	7	3		33
含水率試験	6	18	27	5	3	59
乾燥試験（蒸気式）			1			1
収縮膨張試験		2	2	1		5
家具耐久性試		4	4	4		12
材質試験（低倍率）			3			3
材質試験（グレディング）			1			1
材質試験（組織観察）			4	1	1	6
吸音率測定試験				1	1	2
化学試験（可視紫外線試験）		1			3	4
動的ヤング係数測定試験	1	3	6	19	1	30
摩 耗 試 験			2			2
そ の 他 の 試 験					2	2
成績書の副本	6	5	5		2	18
合 計	125	141	171	81	50	568

（注） 曲げ試験には、小試験体強度試験を含む。

(3) 県内、県外別の試験内訳件数

年 度	13	14	15	16	17	計
県 内	109	111	130	40	31	421
県 外	16	30	41	41	19	147
計	125	141	171	81	50	568

3-3 研究会等の開催

3-3-1 スギシンポジウムの開催

宮崎県は、県度面積の76%がスギを主体とした森林であり、スギの素材生産量は平成3年から連続して日本一となるなど、我が国有数の国産材供給基地として位置づけられている。一方、近年、地球温暖化問題や廃棄物問題への対応、循環型社会の構築といった観点から、木質バイオマス資源は化石燃料に代わるクリーンエネルギー資源や二酸化炭素の排出削減に貢献できる再生可能な資源として大きな期待がなされている。

このような中で、木質バイオマスの利用は、単に林業、木材産業関係者のみならず、経済界や地域住民の関心も高まっていることから、当シンポジウムを開催することによって、森林・林業・木材産業の活性化、ひいては地球温暖化の防止、循環型社会の構築に繋げることを目的に開催した。

1 テーマ

「バイオマス資源としてのスギ材利用」

2 期 日

平成18年2月16日（木） 13:30～17:00

3 基調講演

演題「バイオマス利用の現状と課題」

講師 株式会社 三菱総合研究所 主任研究員 渋谷往男氏

4 特別講演

演題「地域材利用としての木質バイオマス～岩手の試み～」

講師 岩手・木質バイオマス研究会 会長 金沢 滋氏

演題「バーク利用の理想と現実」

講師 ウッドエナジー協同組合 代表理事 吉田 利生氏

演題「木質バイオマス利用による循環型社会の構築を目指して

ー都市エリア産学官連 携促進事業（都城盆地）の紹介ー」

講師 宮崎県木材利用技術センター材料開発部 部長 藤本 英人氏

5 総 括

宮崎県木材利用技術センター所長 有馬孝禮

6 参加者 約250名

7 現地見学会（2月17日（金））

（1）ウッドエナジー協同組合

木質資源利用から供給された蒸気でバイオマス発電を行い、その電力を集成材加工や木材乾燥に利用している。

（2）天福球場屋根スタンド

200mm角のオビスギ材と鋼材を組み合わせたハイブリッド構造の屋根スタンドであり、広島東洋カープのキャンプ地である。

3-3-2 木材加工技術懇談会の開催

木材の需要拡大に繋がる研究開発をより推進するため、製材・加工・住宅関連企業等の需要ニーズを的確に把握することを目的として、関係者を招き、センターに対する意見、要望等を聴取する加工技術懇談会を県内2ブロックで開催した。

会議名	期日	開催場所	参加団体数	参加者数
第1回 木材加工技術懇談会	12/10	ホテル メリージュ延岡	団体 : 6 企業 : 4 行政機関 : 2	22名
第2回 木材加工技術懇談会	3/3	木材利用技術センター 大会議室	団体 : 6 企業 : 7 行政機関 : 3	24名

3-3-3 木材利用研究会の開催

木材利用全般に関連する企業の研究者、関係者による勉強会を開催した。

- 1 開催期日
平成17年12月14日
- 2 開催場所
宮崎県木材利用技術センター大会議室
- 3 講演の内容
演題「これからの木材利用について」
講師 宮崎県木材利用技術センター所長 有馬 孝禮
- 4 参加者数
30名

3-3-4 研究成果報告会

センターで取り組んでいる研究内容、成果を関係企業、団体、行政等に対し、報告会を開催した。

- 1 開催日 平成18年3月16日(木)
- 2 場所 宮崎県木材利用技術センター大会議室
- 3 参加者 約55名

(発表内容)

	テ ー マ	発 表 者
	【材料開発部】	
1	オビスギ材精油成分の樹幹内分布	主任研究員 落合 克紀
2	木製魚礁の生物劣化	部 長 藤本 英人
3	土木資材用スギ材の耐久性向上研究他	主任技師 岩崎 新二
4	高温低湿乾燥法におけるスギ心持ち柱材の乾燥性	特別研究員兼副部長 小田 久人
休 憩 < 5分 >		
	【木材加工部】	
1	構造用集成材ラミナの歩留り向上のための検討	主任研究員 森田 秀樹
2	県産スギラミナを用いた新構成構造用集成材の強度性能	部 長 藤元 嘉安
3	本県産スギ板材の乾燥	主任研究員 蛭原 啓文
4	スギ構造材柱脚柱頭接合部のめり込みクリープー乾燥条件と接合条件の影響ー	副 部 長 荒武 志朗
休 憩 < 5分 >		
	【構法開発部】	
1	低比重スギを使った内装兼用断熱型枠	副 部 長 齊藤 豊
2	地元工務店と鉄工所JVによる大断面スギ製材構法	部 長 飯村 豊
3	丸棒シャフトを用いたスギ接合法の開発とその実施例	主任技師 椎葉 淳
4	木製道路施設の耐久性調査他	主任技師 上杉 基

3-4 講師派遣

3-4 講師派遣

派遣職員	期 日	会議等の名称	内 容	依 頼 者
有馬 孝禮	2005. 4.19	平成 17 年度 新採用研修 II 種前期	これからの木材産業	林野庁 森林技術 総合研修所
有馬 孝禮	2005. 5.18	宮崎県建築事務所協会 設立 40 周年記念講演	地球温暖化防止条約下 における木造建築と宮 崎県のスギ	宮崎県 建築事務所協会
有馬 孝禮	2005. 5.28	第 50 回 全国会員 岐阜県飛騨高山大会	木材と科学	日本木材 青壮年団体連合会
有馬 孝禮	2005.10.15	国民参加の森林づくり シンポジウム	温暖化防止への木使い 「環境問題と都市問題」	森林文化協
有馬 孝禮	2005.10.21	森林・林業フォーラム	木材利用と林業の接点	宮崎県 林研グループ 連絡協議会
有馬 孝禮	2005.11. 5	第 2 回アカデミック 建築講演会	木再考＝建築における 環境と健康と地域を考 える	(社) 愛知建築士会
有馬 孝禮	2005.11.22	ひょうご県産 木造住宅研修	木材利用の意義 (消費が生産を生む)	兵庫県立農林水産 技術総合センター
有馬 孝禮	2005.11.26	平成 17 年度木造住宅 建築促進技術者講演会	木材の特色と木造住宅	栃木県 木材需要 拡大協議会
有馬 孝禮	2005.12. 5	シンポジウム 木質系資源を畜産経営 に活用する	地域産業の資源を生か す循環型社会の形成	(財) 森とむらの会
有馬 孝禮	2006. 3. 2	第 2 回 北川町農林業振興大会	スギを再考する	北川町・ 北川町園芸組合
藤本 英人	2006.2. 1	木造住宅セミナー	シロアリの話	(財) 宮崎県建築 住宅センター
藤本 英人	2006. 3.28	霧島工業クラブ	木製魚礁の生物劣化	霧島工業クラブ
小田 久人	2006.3.23	乾燥技術者養成研修	スギ心持ち柱材の高温 乾燥	県木連

3-4 講師派遣（つづき）

派遣職員	期 日	会議等の名称	内 容	依 頼 者
藤元 嘉安	2005. 6. 4～ 6	日本木材学会 50 周年 記念愛知万博参画事業	「木の教室」における 「耐震構造モデル」、「反 発力実験装置」の説明及 び実演指導	日本木材学会
藤元 嘉安	2005. 7.13～14	木材接着講習会	合板製造・二次加工 及び接着試験方法	日本木材加工 技術協会 九州支部
藤元 嘉安	2005. 9.13	都城農業高校・ 体験学習	木材利用と地球環境保 全との関係、木材の性能 と利用方法	都城地区木青会
藤元 嘉安	2006. 2.28	交付金プロジェクト H17 研究推進評価会議	「オビスギを用いた新 しい集成材の製造と強 度性能評価」	森林総合研究所
荒武 志朗	2005. 6. 2	産学官共同研究 『バイオハウジング』	宮崎県産スギ構造材の 力学的性質と その推定法	韓国全南大学
荒武 志朗	2006. 1.16	SCION 所内講演会 (ニュージーランド)	The outline of Miyazaki Prefectural Wood Utilization Research Center	SCION (Bryan Walford)
荒武 志朗	2006. 1.19	CSIRO 所内講演会 (オーストラリア)	Creep of Sugi Members and Joints in Ambient Conditions	CSIRO (Robert Leicester)
荒武 志朗	2006. 2. 3	宮崎県産材フェア (福岡市)	宮崎県木材利用センター -地域産材活用への挑戦-	宮崎県 山村・木材振興課
蛭原 啓文	2005.10.14	平成17年度 林業普及指導員課題研 修（森林保護・林産）	スギ板材の乾燥につい て	林業技術センター
蛭原 啓文	2006.3.23	乾燥技術者養成研修	スギ心持ち柱材の高温 乾燥	県木連
飯村 豊	2005. 5.10	日本木材加工技術協会 九州支部特別講演	スギ木造の幕開け	日本木材加工 技術協会 九州支部
飯村 豊	2005. 6. 2	産学官共同研究 『バイオハウジング』	木造プロジェクトの 進め方	韓国全南大学

3-4 講師派遣（つづき）

派遣職員	期 日	会議等の名称	内 容	依 頼 者
飯村 豊	2005. 6. 4	ソウル大学 「木質構造」講義	近代木橋－宮崎の 取り組み	ソウル大学
飯村 豊	2005. 6. 4	木造建築研究フォーラム	新木造工法の 傾向と紹介	韓国木造建築研究 フォーラム
飯村 豊	2005. 7.29	第4回 木橋技術に関する シンポジウム	杉の木橋の余寿命	鋼構委員会
飯村 豊	2005. 8.29	顔の見える木材での 家づくり推進事業	地域材活用型住宅のた めの木材利用方法	住宅木材 技術センター
飯村 豊	2005. 9. 6 (福岡)	顔の見える木材での 家づくり推進事業	地域材活用型住宅のた めの木材利用方法	住宅木材センター
飯村 豊	2005.10.28	構造用集成材の製品計 画及び製造に関する講 習会	大断面木造建築物の 法規	(社)日本木材加工 技術協会
飯村 豊	2005.11. 8 (徳島)	顔の見える木材での 家づくり推進事業	地域材活用型住宅のた めの木材利用方法	住宅木材センター
飯村 豊	2006. 1.10	宮崎型 長期耐用住宅開発	宮崎型板材利用住宅の 開発の経緯	日本住宅木材技術 センター
飯村 豊	2006. 1.20	木材利用研修	国産材 集成材による建築	林野庁 森林技術 総合研究所
飯村 豊	2006. 1.28	平成 17 年度 建築士研究集会 「都城大会」	「オビスギづくり」 のはじまり	宮崎建築士会
飯村 豊	2006. 2.15 (福岡)	顔の見える木材での 家づくり推進事業	地域材活用型住宅のた めの木材利用方法	住宅木材センター
飯村 豊	2006. 2.17	建築士のための 指定講習会	木造建築	宮崎建築士会
齊藤 豊	2006. 1.10	宮崎型 長期耐用住宅開発	建築行政から見た 宮崎型板材利用住宅の 課題について	日本住宅木材技術 センター
齊藤 豊	2006. 1.28	平成 17 年度 建築士研究集会 「都城大会」	スパン表から接合へ	宮崎建築士会
上杉 基	2006. 3.28	霧島工業倶楽部 講演会	木製道路施設の耐久性 調査	霧島工業倶楽部

3-5 取材

氏名	取材日	取材内容	取材名
有馬 孝禮	2005. 4	住まいと環境問題 自然環境の枠組みを長期的視点で	日刊工業新聞
有馬 孝禮	2005. 5	第 55 回日本木材学会 50 周年記念大会 パネルディスカッション	ウッドミック
有馬 孝禮	2005. 6	これからの炭	季刊 ふでばこ 3号 2005年夏
有馬 孝禮	2005. 9.20	『教えて宮崎』	M R T
有馬 孝禮	2005.11	温暖化防止への木使い	朝日新聞 2005.11. 7
有馬 孝禮	2005.12.2 1	『ズバリ納得 みやざきの家』	M R T
有馬 孝禮	2006. 1	バイオマスの高度徹底活用による 環境調和型産業の創出	読売新聞
有馬 孝禮	2006. 2.13	『ズバリ納得 みやざきの家』	M R T

3-6 各イベント等への参加

各種イベントに参加し、展示等により当センターの紹介、研究成果のPR等を行いました。

イベント名	開催日	開催場所
日本木材学会 50 周年記念 愛知万博参画	2005. 6. 9～10	名古屋市
アグリビジネス創出フェア	2005.10. 6～7	東京都
ウッドフェスティバル	2005.10. 8～10	宮崎市
宮崎県 三股町ふるさと祭り	2005.11.12～13	三股町
アグリビジネス創出フェア i n 九州	2005.11.15～16	熊本市
宮崎県産材フェア	2006. 2. 3～ 4	福岡市
バイオシンポジウム i n 宮崎 2006	2006. 2.23	宮崎市